

会 議 報 告 書

会議名	平成29年度 第2回 三郷市地域包括支援センター運営協議会		
日 時	平成29年10月19日(木) 午後1時30分～2時50分	場 所	三郷市健康福祉会館 501・502会議室
次 第	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度三郷市地域包括支援センター実地検査結果について【資料1-1】 【資料1-2】 ・第7期三郷市高齢者保健福祉計画骨子案・介護保険事業計画について【資料2】 【資料2-1】 <p style="margin-left: 20px;">(2) 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三郷市地域包括支援センター職員変更等について 【資料3-1】【資料3-2】 ・平成30年度三郷市地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの受託意向の確認について 【資料4】 ・地域包括支援センターみずぬまの運営体制について 【資料5】 <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回運営協議会について(連絡事項等) <p>4. 閉会</p>		
出席者	<p>【会 長】谷口 聡</p> <p>【副会長】種市 ひろみ</p> <p>【委 員】海老原 英之、岡田 育代、児玉 幸子、二瓶 嘉之、福島 英一、 松本 博子、水口 理恵</p> <p>【地域包括支援センター】加藤所長(みずぬま)、星野所長(早稲田)、矢口所長(ひこ なり北)、石本所長(みさと中央)、佐藤所長(みさと南)、入澤所長(しん わ)</p> <p>【事務局】増田 道夫(福祉部長)、森 泰子(福祉部副部長兼ふくし総合支援課長 兼ふくし総合相談室長)、峰川 修一(長寿いきがい課長)、吉井 馨(長 寿いきがい課長補佐兼介護認定係長)、長濱 崇二(長寿いきがい課長補 佐兼介護給付係長)、高橋 一徳(長寿いきがい課長寿いきがい係長)、 谷口 寿美枝(ふくし総合支援課ふくし総合相談室地域包括係長)、元井 隆幸(同 主査)、八巻 絢子(同 主査)</p> <p>【傍聴人】なし</p>		

●審議事項における確認事項

議事			
(1) 報告			
・平成29年度三郷市地域包括支援センター実地検査結果について	→承認		
・第7期三郷市高齢者保健福祉計画骨子案・介護保険事業計画について	→承認		

<p>(2) 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三郷市地域包括支援センター職員の変更等について →承認 ・平成30年度三郷市地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの受託意向の確認について →承認 ・地域包括みずぬまの運営体制について →承認 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回運営協議会について(連絡事項等) 	
<p>平成29年度第2回三郷市地域包括支援センター運営協議会</p>	
司会	<p>平成29年度第2回三郷市地域包括支援センター運営協議会を開会する。</p> <p>本日の運営会議につき、三郷市地域包括支援センター運営協議会設置規則(第6条)の規定により、半数以上の出席を持って会議を開催とあるが、本日は委員10名中8名の出席なので会議は成立する。</p> <p>開会に先立ち、副会長の種市先生からごあいさつをお願いしたい。</p>
種市副会長	<p>急遽司会を務めることとなった。次第に沿い順序良く話していきたい。</p> <p>ご協力よろしくをお願いしたい。</p>
司会	<p>引き続き、三郷市福祉部増田部長よりあいさつ申し上げる。</p>
福祉部長	<p>本日はご多用の中、また足元の悪い中、第2回地域包括支援センター運営協議会にご出席をいただきありがとうございます。</p> <p>本日の議題だが、次第にもある通り地域包括支援センター(以下センターと略)の各所長にも出席をいただき、9月の実施検査の報告をする。また、現在策定中の第7期三郷市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画については骨子案、及び包括に関する部分を説明する。</p> <p>より良い審議ができるよう、ご意見、ご提言を賜りたい。</p>
司会	<p>議事に入る前にお知らせがある。本日の運営協議会につき、机上配布した次第に沿って進行する。なお、各センター長につきましては、報告事項終了後ご退席いただく。</p> <p>審議事項について、三郷市情報公開条例 第7条(1)および(7)に該当する内容があるため非公開とする。本日の傍聴人なし。</p> <p>報告事項終了後、センター長が退席されたのち審議事項に進む。</p> <p>以後の進行を種市副会長にお願いする。</p>
<p>(1) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度実地検査結果 【資料1-1】 【資料1-2】 	
種市副会長	<p>次第に沿って議事を進行する。</p> <p>(1) 報告事項 平成29年度三郷市地域包括支援センター実地検査結果について、事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>【資料1-1・1-2】説明。</p>
種市副会長	<p>意見や質問のある委員はいるか。</p>
岡田委員	<p>【資料1-1】 【資料1-2】を併せた質問を行う。</p> <p>1点目だが、センター全体の取組を読むと認知症のかたに関する報告が少ない</p>

	<p>事が気になった。</p> <p>最近、早稲田居住の家族から相談を受けた事例だが、認知症の高齢者がスーパーにて、本人にそのつもりは無かったが万引きをした結果になってしまい、一回の出来事だったが、そのスーパーは出入禁止にされてしまった。そのかたは日中独居で買い物は遠くに独りで行けない。買い物難民が生まれてきているようだ。別の事例だが、以前みさと団地近くのスーパーにて、独居の高齢女性が万引きした。2回目までは許してもらえたが、3回目で出入禁止になってしまった。その後、越谷に住んでいる娘が母を独りで団地に住ませる事ができないと動き、結局施設入所になった事例もある。</p> <p>認知症高齢者が増えてきている中で、スーパーに買い物に行くということは、その高齢者が在宅で安心して暮らし続けるための重要なサービスの一つだと考えている。正直1回の出来事で出入り禁止は厳し過ぎると思う。</p> <p>認知症高齢者を担当するケアマネジャーの支援方法をもっと考えなくてはいけない。</p> <p>また、各センターから地域の商店街への認知症高齢者の啓蒙活動だけではなく、市からも地域の商店街への啓蒙活動に力を入れていただきたい。</p> <p>2点目だが、センター早稲田からの報告の中に大学と協力し早稲田居住の高齢者の生活実態調査の研究が始まっているという箇所があるが、研究が終わった後、市民にどのように知らせてもらえるのかお聞きしたい。</p> <p>3点目として、実地検査報告中の全体評価に関するところだが、各センターの評価は誰がしているのか。客観的評価と励ます評価を頂ければいいと思う。</p>
種市副会長	3点の質問があったが、1つ目の認知症高齢者に関する啓蒙活動およびケアマネジャー、市の協力体制につき、各センター長からも意見をいただきたい。
森副部長	センター及び市の活動について説明する。
谷口係長	<p>認知症高齢者の啓蒙活動についてだが、昨年度は認知症サポーター養成講座を市内の学校中心に行った。29年度に入ってから消防署職員、市役所内でも開催した。10月末には吉川警察署で講座の開催を予定している。</p> <p>認知症地域支援推進員の会議の中でも、今後新聞社や鉄道の駅員、銀行、郵便局、商店街を対象にするなど、日頃認知症高齢者と接する所と協力し講座を開催してはどうかという意見が出ているので、今後の開催を検討したい。</p> <p>3点目の市の評価だが、地域包括係2名で6か所の各センター事務所へ赴き、事前に作成していただいた調査票をもとに、現状や課題など聞き取りを行った。聞き取り結果と事前調査票、聞き取った各センターの取り組み状況や課題を市でまとめたものである。</p>
種市副会長	市が評価したのではなく、各センターの意見をまとめたものが全体の評価という事になるのか。
谷口係長	市で作成した。昨年度は内容を細かく作成したところ読むのが大変な面があったため、29年度はその点を踏まえ概要としてまとめた。
岡田委員	啓蒙活動についてだが、住民が日々の生活で関わっているところを重点に啓蒙活動をお願いしたい。床屋やスーパーなど。特にスーパーは、女性の認知症高齢

	<p>者で特に用事が無くともスーパーに毎日行く習慣が身につけている人は、毎日スーパーで同じものを買って冷蔵庫いっぱいにするのが生活実態。</p> <p>高齢者が商品を盗ったという出来事が起こった時、まず認知症を疑ってもらいたい。商店街に認知症を啓蒙していただき、理解してもらいたい。最終的にどう対応するかは店次第だが、認知症が疑われる高齢者は店から最寄のケアマネジャーやデイサービスに連絡するなどしてもらえるようになるといい。</p> <p>高齢者を出入り禁止にするのは悲しい。</p>
種市副会長	<p>今後も含め認知症高齢者の啓蒙活動をセンターと市で行ってもらいたいという意見が出た。各センターは独自の活動を頑張っていたきたい。</p> <p>3点目の質問だが、早稲田の県立大学の研究事業への協力に関し、目的と概要の説明をお願いしたい。</p>
早稲田 星野所長	<p>きっかけは、事務所下にある地区サロンのNPO理事たちが、地域の実情を話し合いをしていて、サロンが市のあちこちにあったほうがいいが市にどう働きかけをしたらいいかと話をして聞いたのを聞いた。市と交渉するにあたって、サロンが必要である根拠を数字で出して市に話したほうがよいと考えたのがきっかけ。県立大学の先生と会う機会があり相談したところ、有志として協力してもらえることになった。</p> <p>毎月1回会議をしていて、地区サロンに来ることで生活や心境にどのような変化があったか、今後聞き取り調査を実施する予定。地区サロンに来ていない人への調査を含め2年かけて実施する。今は地区サロン利用者へのアンケート内容の詰めを行っているところである。まだ始まったばかりで具体的な結果は出せていないが、結果が出た時には市にもぜひ見て欲しい。</p> <p>今後、高齢者が地域の住み慣れた地域で健康に暮らすために、予防という視点でどのようなものが必要なのかという一つの指標になると良い。</p>
種市副会長	<p>積極的な試みが市に活かされると良い。</p> <p>認知症高齢者の対応の件で、他のセンターでの工夫や困っている事はあるか。</p>
ひこなり北 矢口所長	<p>認知症高齢者のことは近隣住民などから連絡がある。認知症高齢者がスーパーの陳列棚を倒してしまったというような件などが、民生委員から直接包括に連絡が来ることもある。</p> <p>連絡があれば、その都度スーパーや商店街へ行き話をしている。店としては顧客という事もあり、出入り禁止という所まではなかなか踏み切れないようだ。万引き事案にすると警察が入るので店側が躊躇するのか、高齢者の万引きの相談は1件もない。</p> <p>他人の籠に品物を入れてしまったりするという連絡は多々あるという現状をスーパーや商店街に話している。</p> <p>月に4回床屋に来店してしまう人の件で相談が入ったこともある。その高齢者が来店してもいったん話を聞いて諭し話を聞いて帰ってもらうといった、対応方法としての傾聴を助言している。</p>
早稲田 星野所長	<p>実際に商店街に出向いてサポーター養成講座を紹介するなど、理解してもらうためには地道な活動しかないのかなと思う。</p>

<p>みずぬま 加藤所長</p>	<p>第1圏域にドン・キホーテというスーパーがある。昨年は店から直接の通報は無かったが、高齢者の家族からドン・キホーテの品物を持ってきてしまったと連絡が入り、認知症の疑いがあるという事で相談をきっかけに介入することはよくある。</p> <p>また、ドン・キホーテは店内中央に長いスロープ型のエスカレーターがあり、高齢者がよく転倒している。カートを持って歩行器を借りても段差に引っかかり下がれない人がいる。建物にエレベーターはあるが、その付近で万引きが多く発生するという噂のため、店が現在使えなくしているのが高齢者にも影響しているという大きな問題がある。</p> <p>歩行器を導入したくてもエレベーターが使えないため、食料品売り場の1階に持っていけない。ずっと考えていた問題だったので、一度店に交渉してみようと思う。</p> <p>コンビニでも認知症の疑いがある人が来店したら、というかたちで挨拶をしていきたい。認知症サポーター養成講座も人数が集まれば開催したい。</p>
<p>みさと中央 石本所長</p>	<p>日頃から支援の必要な高齢者に関して、地域住民との集まりで共有し、見守りの体制づくりを始めている。</p>
<p>みさと南 佐藤所長</p>	<p>戸ヶ崎にフードストッカーというスーパーがある。</p> <p>買い物に行く高齢者の中で、気になる人がいるかをセンター職員が聞き取りに行ったことがある。ただ、名前と特徴を伝えても伝わらず、その後の繋がりにはならなかった。</p> <p>日頃から顔を繋がっていればと思うが難しい。毎回、砂糖と食パンを買い貯めてしまう。</p> <p>ちょうどフードストッカーの前に認知症カフェのCafé MILCが目前にある。その職員が様子を見てくれるという連携もある。また、民間の弁当宅配業者から体調の悪い高齢者の連絡を受けたのをきっかけに介入するという連携が取れた。</p> <p>最近のごみ屋敷の相談も多いので、ごみ処分のためリサイクル業者に連絡したり、家電修理の依頼で電気屋に連絡するなど、ケースを通じ草の根でネットワークができつつあるが、大きな展開はまだ難しい。</p> <p>商工会との連携は市が主導してもらいたいと思う。商工会では有償ボランティアもやっている。地域との連携は市が方向性を示してほしいと思う。</p>
<p>しんわ 入澤所長</p>	<p>圏域内に商店が少ないので万引きの相談は少ない。</p> <p>圏域内の高齢者はよくコンビニで買い物をするようで、毎日来店する客で、お金が数えられず支払いができない高齢者がいるという相談がコンビニから入り、その高齢者に関わっていった事例がある。買い物は生活に密着することなので、コンビニとの協力は重要だと思う。</p> <p>私は、センター職員としてだけでなく、三郷市のキャラバンメイトや認知症地域支援推進員としても活動しているが、両方とも認知症という課題は共通しているので、別個に活動するのではなく協力しあったほうがいい。それぞれの会議の場では、地域のサロンだけではなく、職域やお金に関係するところでも認知症</p>

	<p>サポーター養成講座を広げていければ、と意見交換がされている。</p> <p>できれば市がそういったところへ声掛けしてもらい、そのあとにセンターや認知症地域支援推進員が実質的に関わっていけると良いと考えている。</p>
種市副会長	<p>皆さん本当に連携を頑張っていたらいい。連携がうまくいけば、より発展していくのではないかと感じさせるご意見をいただいた。</p> <p>他に意見や質問のある委員はいるか。</p>
水口委員	<p>認知症だけでなく障害者もそうだが、そういった人たちが目に見えなくなっているように感じる。認知症であることを隠す人が未だに見られる。認知症とはどのような病気なのか、どういったことが起こるのか、市民はわからない、スーパーの店員もわからないというのが問題。啓発して知識を広げるのが一番だが、サポーター養成講座を開催するにしてもなかなか人が集まらない。どのように市民に知識を広げていくかが課題。</p> <p>一つの方法として、本人を家の中に閉じ込めず、オープンにして外に出てきてもらい知ってもらうというやり方がある。</p> <p>各センターが事前調査票を作成するにしても労力や時間がかかる。日々の多忙な業務の中で基本的なことは解っているが故に流れてしまう事がある。質問事項を読むだけでも気持ちを新たに出来ると考える。大変だと思うがこのような調査は必要。現場職員のモチベーションの維持のためにも、読み直して振り返る大切さを感じる。</p>
谷口会長	<p>認知症に関する色々な取り組みがあるが、様々な部署や団体が個々に活動しているためまとまった動きになっていない。</p> <p>この場で話しあうことではないが、全体を俯瞰する場をつくり、方向性や分析、意見の集約をしたほうが、今後の認知症関連施策に関する運営が上手くいくのではないかと各委員の意見を聞いていて感じた。商工会やコンビニへの結びつきや働きかけは、一斉に行わないとうまくいかない。舵取りを行うところが必要である。</p>
水口委員	<p>行政・企業・NPOなどを含め、認知症に関して総合的に扱うところはあるのか。</p>
谷口会長	<p>認知症初期集中支援事業でその役割を担う予定があった。事業が始まって3年程経過したがなかなか進んでいない。これからの課題である。次の議題へ進む。</p>
<p>・第7期三郷市高齢者保健福祉計画 骨子(案) 【資料2】</p> <p>・第7期三郷市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 施策(案) 【資料2-1】</p>	
事務局	<p>【資料2】 【資料2-1】 説明。</p>
谷口会長	<p>意見や質問のある委員はいるか。</p>
水口委員	<p>地域包括ケア体制の推進、地域見守りネットワークの推進、地域包括支援センターの機能強化について、イメージできないので説明してほしい。</p>
事務局	<p>各項目はまだ案の段階である。各センターで民生委員やケアマネジャーなど、地域の関係者と地域のネットワーク作りのための会議を開催していただいている。町会との連携も盛んである。包括との連携作りに取り組んでいる。</p> <p>これから、より一層このような取り組みが必要であるため記載した。</p>
水口委員	<p>年に何回、月に何回といった目標を具体的に考えているのか。</p>

事務局	各センターとも多忙な中で会議を開催し、地域づくりをやりたい気持ちはあるが、現状ではなかなか進まないと聞いている。 地域ケア会議は年2回と目標を挙げているが、かなり負担だという話も伺っている。各センターでできる範囲を探りながら進めていきたい。
水口委員	市は各センターに対しどのような支援を行っていくのか。
事務局	市内の状況をデータ分析し、各圏域の状況を提供していきたい。
岡田委員	今の意見に加え、先ほどの議題の各センターの事前調査票にあったが、今のセンターの人員体制では各事業の推進は苦しい。やはり予算が必要だ。委託料が足りないため法人が持ち出ししていると調査票に書いているセンターもある。市は十分理解していると思うが、今の委託料予算の上乗せを検討してほしい。 【資料2】のセンターの機能強化の内容や、地域包括ケア体制を今後作っていかなくてはならない。それを支える骨組みづくりの予算が必要だと思う。
松本委員	賛成である。人は少ない、予算は少ない、では市民が安心して暮らせる地域包括ケア体制は作れない。 地域包括支援センターを知らない人が非常に多い。しんわは、圏域内のスーパーにセンターの紹介チラシを貼らせてもらい啓発している。いい取り組みだと思う。
事務局	各委員から法人やセンターから予算を手厚くしてほしいという意見をいただいたが、市としてもセンターの運営に苦勞されていることは認識している。 国や県への要望を市役所各部から定期的に出しているが、福祉部では重点的に地域包括支援センターの安定運営のための支援を、という要望事項を取り上げている。委託料の問題は三郷市だけの問題ではないので、引き続き国や県に訴えていきたい。
水口委員	【資料2】と【資料2-1】に載っているものは、本来市の責任で実施するものだと思う。市が地域包括センターの仕事を増やしている。今までと違う仕事が増えているのだから、それに応じた予算配分をしていただけるよう努力してほしい。 それにしてもセンターに人材が集まらない。長続きする良い人材を招くには、それなりの給与を出さないと集まらない。大きな医療法人グループを背景に持っている法人ならその中で人材を回せるが、そうではない法人がこの委託料でいい人材を雇用するのは現実的には難しいと思う。
岡田委員	審議事項に関係する内容が含まれているため非公開
水口委員	看護師は現場経験3年以上という要件がある。しかしそういう経験がある看護師は現場が手放さないであろうし、そもそも「地域包括支援センター」という職場が応募者にとって魅力的な職場なのかという問題もある。 個人的には、地域包括支援センターの仕事はやりがいよりも大変なのだろうという考えが先に浮かぶ。難しいところである。
谷口会長	この話題は毎回のぼるが、効果的な解決策が出てこない。努力しているとは思いますが市はご配慮願いたい。 資料の見方のところだが、「新規」とは新しいものが付け加わっているという事

	ではないのか。
事務局	3年前の第6期計画と比較し、新しく加えたところが「新規」である。第6期計画策定時は掲載する予定が無かったが、その後の社会的な要請で始まった新しい事業を今回「新規」という扱いで掲載している。
水口委員	認知症患者の家族へのバックアップやフォローをお願いしたい。
事務局	【資料2-1】中⑤に介護者の負担軽減について記載した。認知症については、本人だけではなく家族の問題でもあると認識している。
谷口会長	他に意見等はあるか。(質問・意見無し) 委員から出た意見について、市は持ち帰って検討していただきたい。それではこの議題は終了する。それでは冒頭に事務局からお知らせしたとおりセンター長はご退席をお願いする。 (センター長退席)
(2) 審議	
<ul style="list-style-type: none"> ・三郷市地域包括支援センター職員変更一覧 【資料3-1】 ・三郷市地域包括支援センター変更届書類一覧 【資料3-2】 	
三郷市情報公開条例第7条(1)に該当する内容があるため非公開	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度三郷市地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの受託意向調査回答一式 【資料4】 	
三郷市情報公開条例 第7条(7)に該当する内容があるため非公開	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターみずぬまの運営体制について【資料5】 	
三郷市情報公開条例 第7条(7)に該当する内容があるため非公開	
3.その他	
事務局	平成30年度の委託料案につきご意見いただく必要があること、および介護保険事業計画の報告があることから、会長と協議した結果、当初次回は2月の予定であったが、その前に運営協議会を開催する。 開催日：平成29年12月21日(木) 13:30～ 場 所：市役所本庁舎6階 第3委員会室 後日改めて案内を送付するが、先にこの場にてお伝えする。 連絡事項は以上になる。
司会	以上をもち、本日の次第の予定を全て終了した。なお、 【事前に郵送した次第】、【資料3-2】、【資料4】、【資料5】、は会議終了後回収するので、お持ち帰りの無いようお願いする。 最後に閉会の言葉を種市副会長からお願いする。
4. 閉会	
種市副会長	ご参加いただきありがとうございました。これをもって、平成29年度第2回地域包括支援センター包括運営協議会を終了する。